

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果資料

○教科に関する調査の結果と分析

〔国 語〕

全国の平均正答率と比較して、±3ポイント以内の差であるものは「ほぼ同程度だがやや上回っている」「ほぼ同程度だがやや下回っている」、±3ポイント以上の差がある場合は「上回っている」「下回っている」としています。

本校の概要

【領域】

□【知識及び技能】

「言葉の特徴や使いに関する事項」

◇全国平均を下回っている。

「情報の扱いに関する事項」

◇全国平均を下回っている。

□【思考力・判断力・表現力等】

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均を下回っている。

「書くこと」

◇全国平均を下回っている。

「読むこと」

◇ほぼ同程度だがやや下回っている。

今回の調査における課題

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
- 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解すること。
- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。
- 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

改善の方向

- ☆ 比喩や反復、倒置などの表現の工夫に関する知識を身に付けさせる指導を確実に行う。
- ☆ 考えがどのような理由や事例によって支えられているのかを吟味する活動を充実させる。
- ☆ 相手や目的を意識し、話の中心が明確になるように理由や事例を挙げ、筋道を立てた構成を考えていく活動を充実させる。
- ☆ 言葉だけでは聞き手が理解しにくい場面などを例に挙げ、資料を使いながら話すという活動を充実させる。
- ☆ 原文を正確に引用し、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書く活動を充実させる。

〔算 数〕

本校の概要

【領域】

「数と計算」

◇全国平均を下回っている。

「図形」

◇全国平均を下回っている。

「測定」

◇全国平均を下回っている。

「変化と関係」

◇ほぼ同程度だがやや下回っている。

「データの活用」

◇全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

- 整数と小数の減法の計算をすること。
- 立方体の体積の計算による求め方を理解すること。
- 図形を構成する要素に着目して直方体の三つの長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述すること。
- 示された情報を基に、数量の関心に着目して、条件に合う時間を求めること。
- 百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めること。
- 二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて表現すること。

改善の方向

- ☆ 小数点をそろえて位ごとに計算することなど、基本的な計算力を付けるための活動を充実させる。
- ☆ 立方体や直方体の体積の求め方を身に付けさせる活動を充実させる。
- ☆ 図形を構成する要素を見付ける活動の充実。また、データを分類整理して表に表したり、言葉で説明したりする活動を充実させる。
- ☆ 示された情報から数量の関係を捉える活動や、それを基に条件に合う解答を考えていく活動を充実させる。
- ☆ 問題場面を理解し、表や線分図などから基準量、比較量、割合の関係を捉え、それぞれの求め方を考え解いていく活動を充実させる。
- ☆ 誤りが起きにくい方法を考えて資料を分類整理したり、読み取った内容を数や言葉を用いて記述したりする活動を充実させる。

○6年生質問紙調査より(抜粋)

【全国平均を上回っている】

- ☐ 「学校での悩みについて、親や家族に話す」と答えた子どもの割合
- ☐ 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた子どもの割合
- ☐ 「自分にはよいところがある」と答えた子どもの割合
- ☐ 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と答えた子どもの割合
- ☐ 「学校の授業時間以外に、ICT機器を勉強のために使っている」という時間が長い子どもの割合
- ☐ 「5年生までに受けた授業で、ICT機器を使用した」という回数が多い子どもの割合
- ☐ 「ICT機器で文章やプレゼンテーションを作成できる」と答えた子どもの割合

【全国平均を下回っている】

- 「平日に携帯電話やパソコン、テレビ等でSNSや動画の視聴などをしている」という時間が長い子どもの割合
- 「将来の夢や目標をもっている」と答えた子どもの割合
- 「人と違う意見を言っても否定されない」と答えた子どもの割合
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答えた子どもの割合
- 「考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と答えた子どもの割合
- 「(総合的な学習の時間で)課題を立てて情報を集め整理し、発表するなどの学習活動に取り組んだ」と答えた子どもの割合
- 「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と答えた子どもの割合

今回の調査結果から、本校の児童は、授業や家庭学習の中でICT機器を効果的に活用し、文章や資料を作成する力を高めていることが分かりました。また、困りごとがある時には、御家庭や学校で周りに相談することができ、自身のよさを感じながら日々を過ごしている児童が多いことも分かりました。これらは、日ごろの御家庭での温かい見守りと御理解のおかげです。感謝申し上げます。

一方で、お互いの多様な考えを認め合いながら話し合い、意見を深めていくことや、調べたことを相手に分かりやすくまとめて発表したりすることに、まだ難しさを感じている児童も見られます。また、自分の将来の夢や社会との関わり方、SNSや動画等のメディア利用などについても考えていく必要があると考えられます。

このようなことを踏まえ、今後は次のような取組をしていきたいと考えております。

- ①互いの異なる意見を尊重し合い、授業や学級会などを通して多様な考えを生かしながら、協力して課題を解決していくという話し合い活動を充実させていく。
- ②困りごとを周りに相談できるという安心感を基盤とし、一人ひとりのよさを認め合い、自己肯定感や有用感を高める関わりを継続していく。
- ③ICT機器を効果的に活用しながら、自ら課題を立てて情報を整理し、相手に伝わるような構成や表現を工夫して発表していくといった探究的な学びを意識した活動を充実させていく。
- ④将来の夢や目標を描けるようにキャリア教育に力を入れるとともに、出前授業や校外学習などの体験学習や様々な人々との交流を通して、地域や社会に貢献したいという思いをもてるような教育活動を推進していく。

本校としては、この調査結果を基に、学校と家庭、地域が手を携えて子どもたちを育ていけるよう、教育活動の改善に努めていきます。御理解、御協力の程をよろしくお願いいたします。

(担当:教務主任 杉原 正樹 学校電話 761-2521)